

# 人 口

## 令和3年推計人口

令和3年10月1日現在の総人口は175万5,415人(男85万7,062人 女89万8,353人)で、前年に比べ14,839人(0.8%)減少しました。

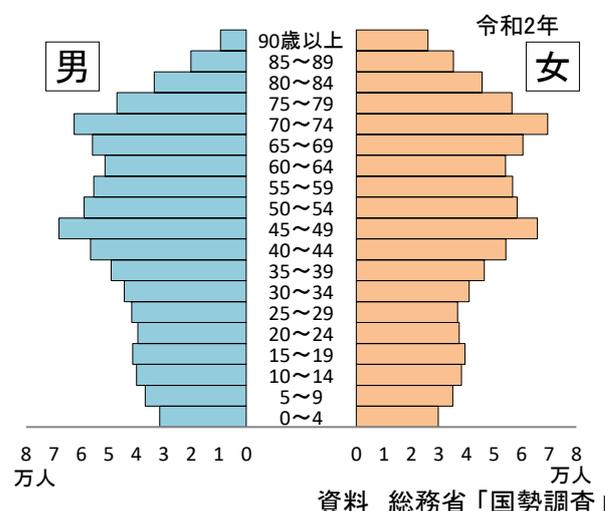
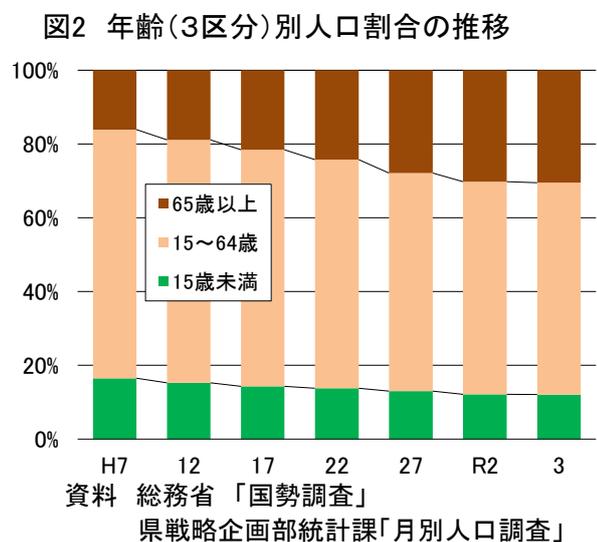
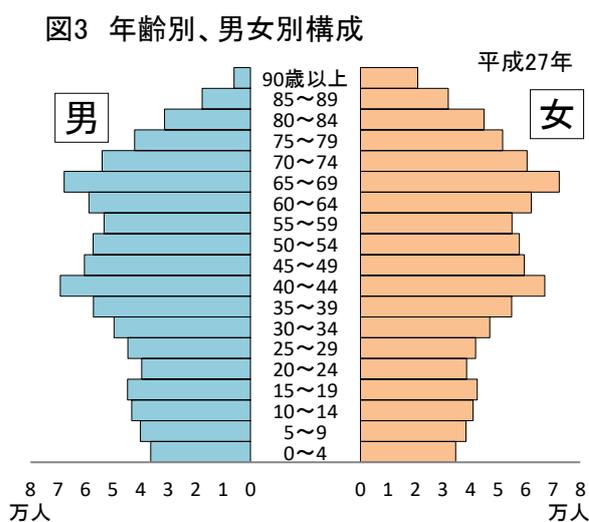
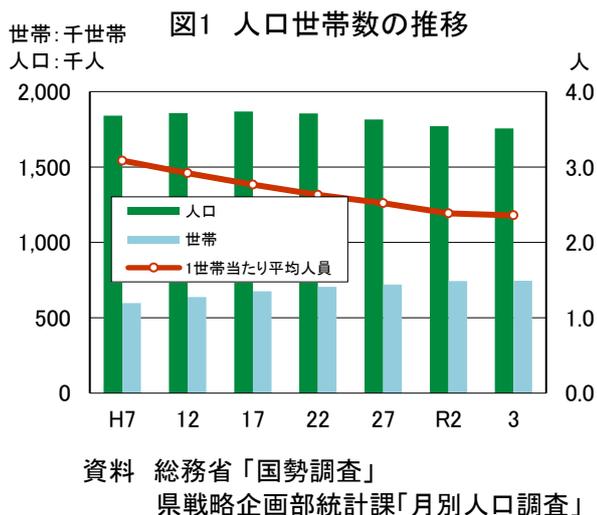
また、年齢3区分別にみると、年少人口(15歳未満)が総人口に占める割合は11.8%、生産年齢人口(15~64歳)割合は56.1%、老年人口(65歳以上)割合は29.8%となっています。令和2年国勢調査結果と比較すると、年少人口割合が0.1ポイント、生産年齢人口割合が0.2ポイントそれぞれ下降しました。一方、老年人口割合は0.3ポイント上昇しました。

## 令和2年国勢調査結果

令和2年10月1日現在の総人口は177万254人(男86万4,475人、女90万5,779人)で前回調査の平成27年に比べ4万5,611人(2.5%)減少しました。国勢調査結果による三重県の人口の推移を見ると、昭和30年~35年にわずかに減少したのを除くと、大正9年以降増加を続けていましたが、平成22年から減少に転じました。

総世帯数は74万2,598世帯で、平成27年に比べ2万2,306世帯(3.1%)増加しましたが、1世帯当たり人員は2.38人で0.14人減少しました。

また、年齢別構成を平成27年と比べると、少子化、高齢化していることがわかります。



# 人 口

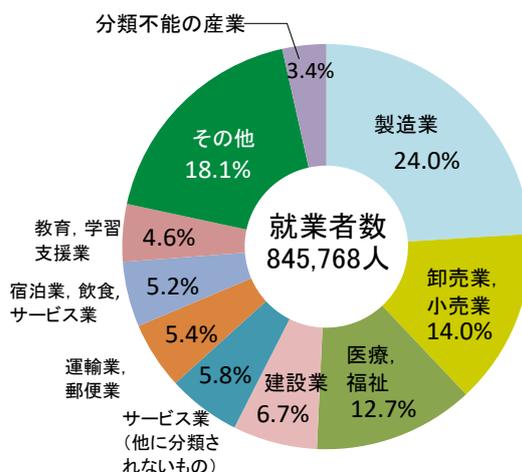
## 産業別就業者数

令和2年10月1日現在(国勢調査)の15歳以上の就業者は84万5,768人で、前回調査の平成27年に比べ2万7,005人減少しました。

産業大分類別にみると、最も多いのは製造業の20万2,997人(構成比24.0%)、次いで卸売業、小売業の11万8,464人(同14.0%)、医療、福祉の10万7,708人(同12.7%)と続いています。

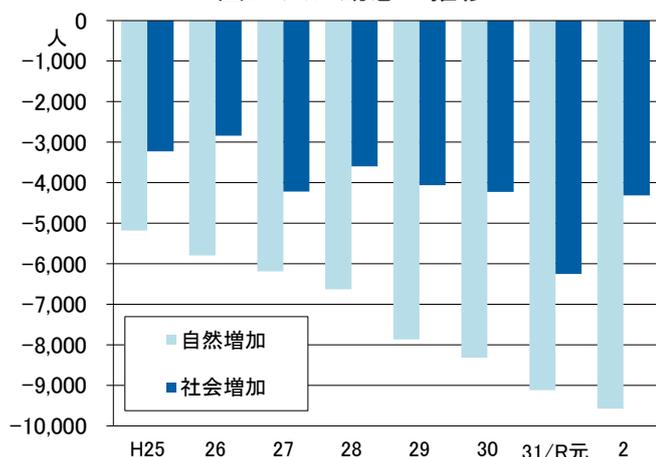
また、産業3部門別にみると、第1次産業が2万6,455人(構成比3.1%)、第2次産業が25万9,965人(同30.7%)、第3次産業が52万9,951人(同62.7%)となっています。

図4 産業別就業者数 令和2年10月1日現在



資料 総務省「国勢調査」

図5 人口動態の推移



資料 総務省「住民基本台帳人口移動報告年報」  
厚生労働省「人口動態調査」

## 人口動態

令和2年1年間の人口動態は、出生1万1,141人、死亡2万716人、他都道府県からの転入2万5,108人、他都道府県への転出2万9,419人となりました。

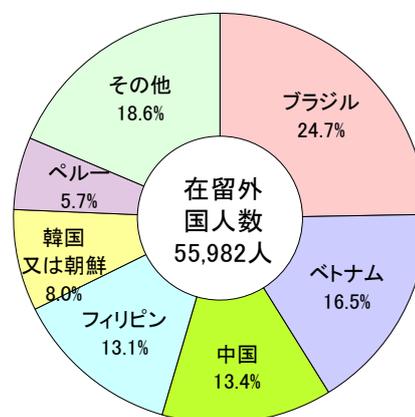
人口動態の推移を自然増加(出生-死亡)と社会増加(県外からの転入-県外への転出)でみると、自然増加数は年々、減少数が拡大する傾向にあり、令和2年には9,575人の減となりました。

また、社会増加数は平成20年から令和2年まで12年連続(令和2年4,311人)の減少(転出超過)となりました。

## 在留外国人数

令和2年12月31日現在の在留外国人数は、5万5,982人でした。国別の内訳をみると、ブラジルが1万3,837人(構成比24.7%)、ベトナムが9,214人(同16.5%)、中国が7,475人(同13.4%)、フィリピンが7,357人(同13.1%)、韓国又は朝鮮が4,480人(同8.0%)、ペルーが3,204人(同5.7%)などとなっています。

図6 在留外国人数 令和2年12月31日現在



資料 法務省「在留外国人統計」

## 土地・気象

### 地 勢

三重県は、日本列島のほぼ中央、太平洋側に位置し、南北約170kmに対し東西約10km～80kmと南北に細長い県土を持っています。

県土は、中央を流れる橿田川に沿った中央構造線によって、大きく北側の内帯地域と南側の外帯地域に分けられます。

内帯地域は東に伊勢湾を望み、北西には養老、鈴鹿、笠置、布引等の山地・山脈が連なっています。

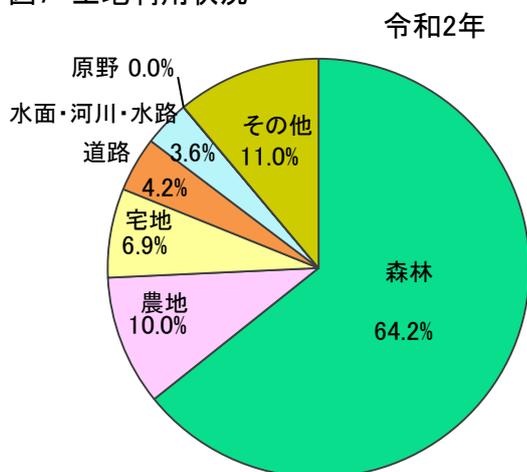
一方、外帯地域の東部はリアス式海岸の志摩半島から熊野灘に沿って南下、紀伊半島東部を形成し、西部には県内最高峰1,695mの日出ヶ岳を中心に紀伊山地が形成されています。

### 土 地

令和3年10月1日現在(国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」)の三重県の総面積は5,774.47km<sup>2</sup>、全国37万7,974.63km<sup>2</sup>(歯舞群島等及び竹島を含む)の1.53%を占め、面積順位では25番目となっています。

令和2年の県土の利用状況をみると、森林が総面積の64.2%を占め、農地10.0%、宅地6.9%と続いています。

図7 土地利用状況



資料 県地域連携部水資源・地域プロジェクト課

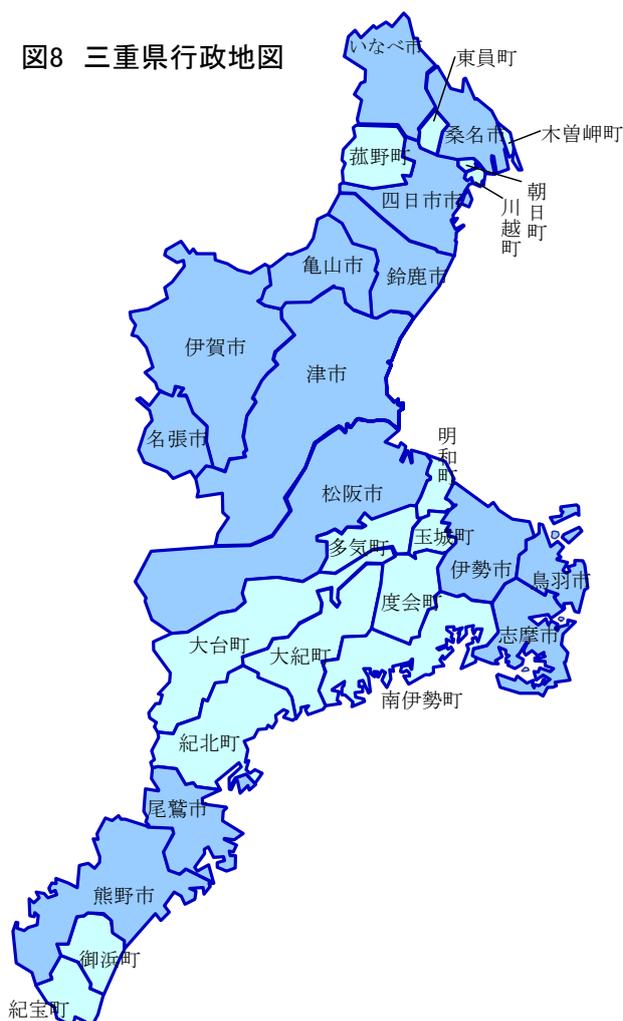
### 県の位置

| 方位 | 地名      | 経緯度            |
|----|---------|----------------|
| 東端 | 鳥羽市神島町  | 東経136° 59' 15" |
| 西端 | 熊野市紀和町  | 東経135° 51' 12" |
| 南端 | 南牟婁郡紀宝町 | 北緯 33° 43' 22" |
| 北端 | いなべ市北勢町 | 北緯 35° 15' 28" |

### 行政区画

明治22年に三重県に市町村制が施行された当時の市町村数は1市18町317村の336市町村でしたが、その後の市町村合併により昭和48年に69市町村となりました。平成15年11月時点の13市47町9村が、平成の大合併により平成18年1月には14市15町の29市町となり、現在に至っています。

図8 三重県行政地図



気 候

内帯地域中、海岸地帯に位置する津市(津観測所)の気候は気温16.9℃(令和3年の平均気温、以下同じ)、年降水量1,839.5mm(令和3年の年降水量、以下同じ)と比較的温暖で過ごしやすいところです。

これに対し、内帯地域の西側、布引山地等に囲まれた伊賀盆地にある伊賀市(上野観測所)の気温は15.3℃、年降水量は1,663.0mmと夏冬や朝夕の温度較差が大きい内陸型の気候の特徴を示しています。

外帯地域東側の海岸地帯は、黒潮の影響で温暖な地域が広がっており、その南側、熊野灘に面した尾鷲市(尾鷲観測所)の気候は、気温17.1℃と四季を通じて暖かい海洋型の気候となっています。又、年降水量は4,486.0mmと、全国でも有数の多雨地帯となっています。

図9 観測所別年平均気温(℃)・年降水量(mm)

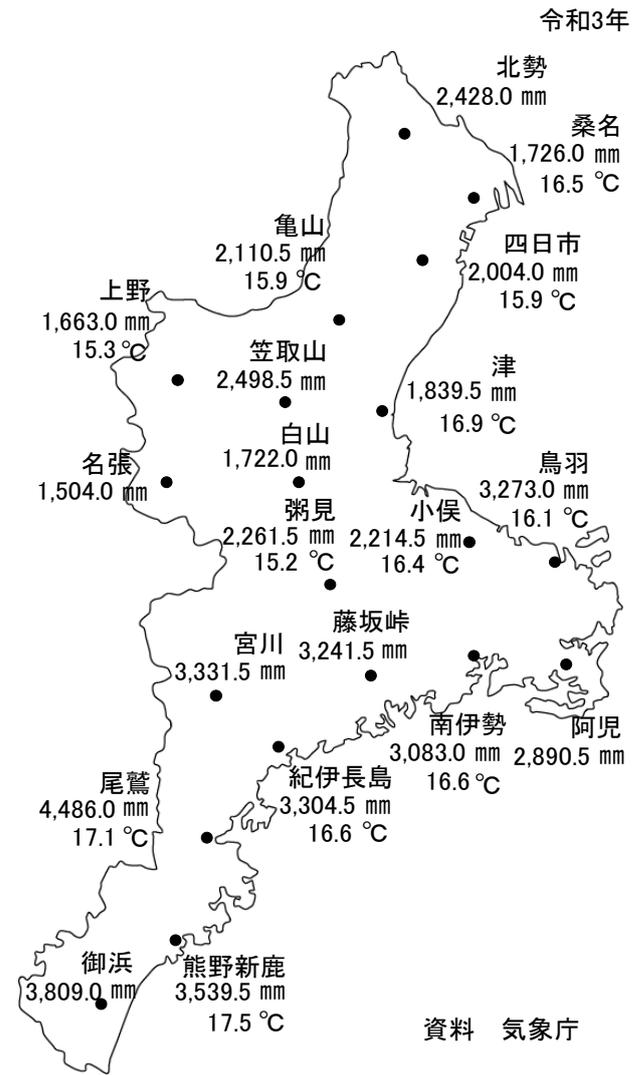
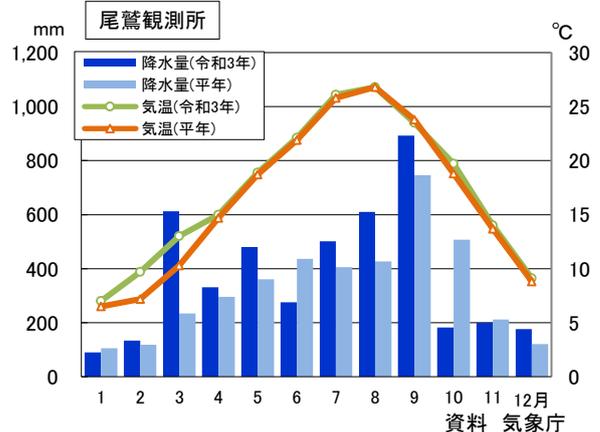
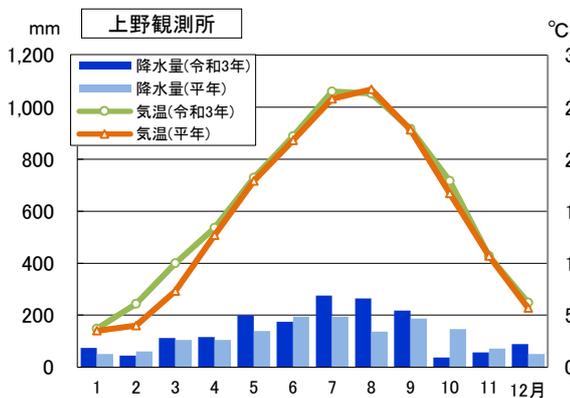
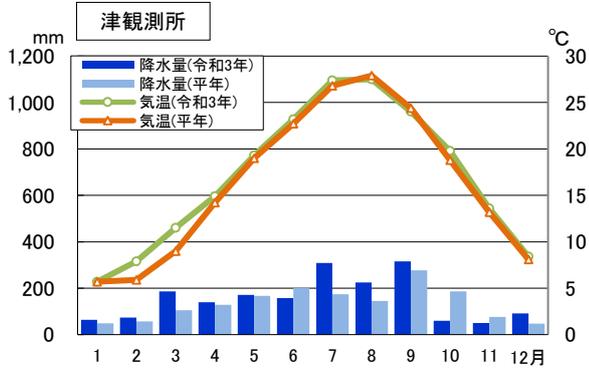


図10 気候・降水量の月変化図



# 事業所

## 事業所数及び従業者数

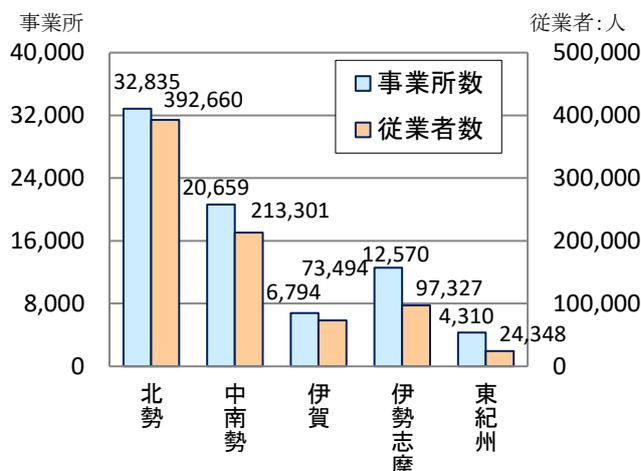
平成28年6月1日の事業所数(経済センサス - 活動調査)は7万7,168事業所でした。

また、従業者数は80万1,130人で男女別にみると、男が44万4,208人(構成比55.4%)、女が35万3,647人(同44.1%)となっています。

(従業者数に男女別の不詳を含むため、従業者数と男女の合計数とは一致しない。)

図11 地域別事業所数、従業者数

平成28年6月1日現在

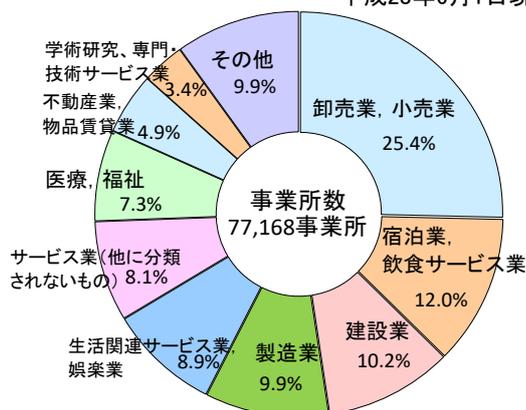


※北勢：四日市市, 桑名市, 鈴鹿市, 亀山市, いなべ市, 桑名郡, 員弁郡, 三重郡 / 中南勢：津市, 松阪市, 多気郡 / 伊賀：名張市, 伊賀市 / 伊勢志摩：伊勢市, 鳥羽市, 志摩市, 度会郡 / 東紀州：尾鷲市, 熊野市, 北牟婁郡, 南牟婁郡

資料 総務省・経済産業省「経済センサス - 活動調査」

図12 産業大分類別事業所数

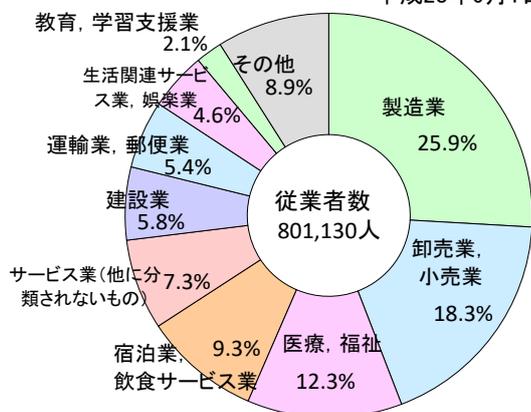
平成28年6月1日現在



資料 総務省・経済産業省「経済センサス - 活動調査」

図13 産業大分類別従業者数

平成28年6月1日現在



資料 総務省・経済産業省「経済センサス - 活動調査」

## 産業別事業所数

平成28年6月1日の事業所数を産業大分類別にみると、卸売業, 小売業が1万9,577事業所(構成比25.4%)で最も多く、次いで宿泊業, 飲食サービス業が9,293事業所(同12.0%)、建設業が7,884事業所(同10.2%)、製造業が7,615事業所(同9.9%)などとなっています。

## 産業別従業者数

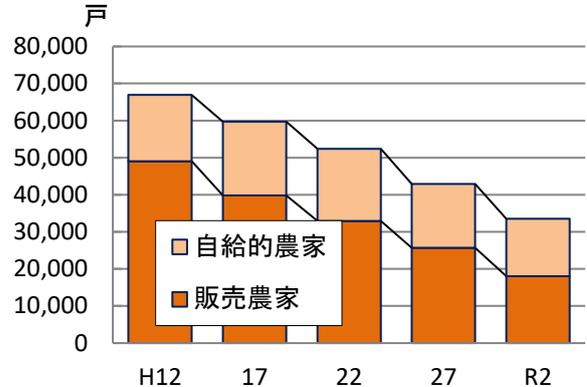
平成28年6月1日の従業者数を産業大分類別にみると、製造業が20万7,599人(構成比25.9%)で最も多く、次いで卸売業, 小売業が14万6,316人(同18.3%)、医療, 福祉が9万8,616人(同12.3%)、宿泊業, 飲食サービス業が7万4,466人(同9.3%)などとなっています。

# 農林水産業

## 農家数

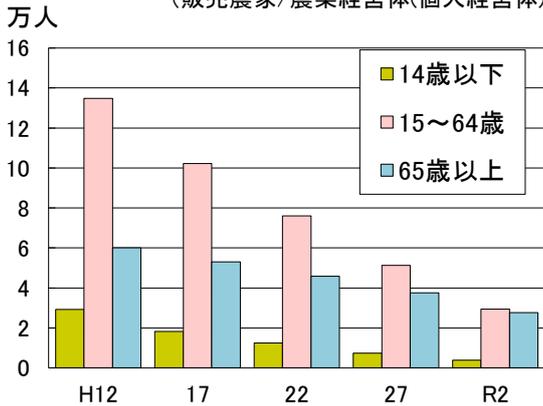
令和2年2月1日現在の総農家数は3万3,530戸で、前回調査の平成27年に比べ9,391戸(21.9%)減少しました。総農家数を自給的農家と販売農家の別にみると、自給的農家は1万5,468戸、販売農家が1万8,062戸で、平成27年に比べ自給的農家が1,757戸(10.2%)、販売農家は7,634戸(29.7%)減少しています。

図14 総農家数の推移



資料 農林水産省「農林業センサス」  
「世界農林業センサス」

図15 年齢階層別世帯員数の推移  
(販売農家/農業経営体(個人経営体))



資料 農林水産省「農林業センサス」  
「世界農林業センサス」

## 年齢階層別世帯員数

### (販売農家/農業経営体(個人経営体))

令和2年2月1日現在の農業経営体(個人経営体)の世帯員数は6万845人でした。

年齢別では、14歳以下が3,895人(構成比6.4%)、15~64歳が2万9,358人(同48.3%)、65歳以上が2万7,592人(同45.3%)となっています。

※平成27年以前は、販売農家の値であるため、農業経営体(個人経営体)の値である令和2年とは接続しない。

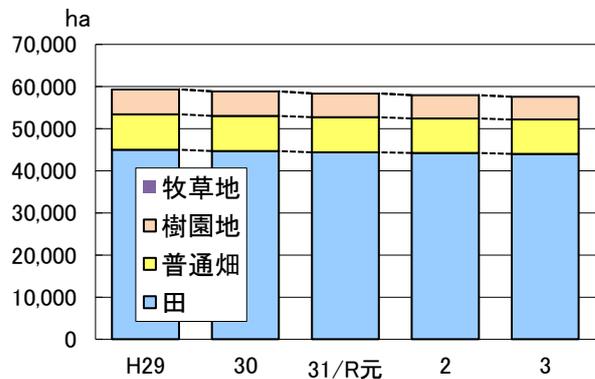
## 耕地面積

令和3年の耕地面積は5万7,600haで、前年に比べ400ha(0.7%)減少しました。

種類別にみると、田4万4,000ha、畑1万3,600ha(普通畑8,150ha、樹園地5,410ha、牧草地26ha)となっています。

※原数が4桁の場合は下1桁、原数が5桁の場合は下2桁を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

図16 種類別耕地面積の推移



資料 農林水産省「耕地及び作付面積統計」

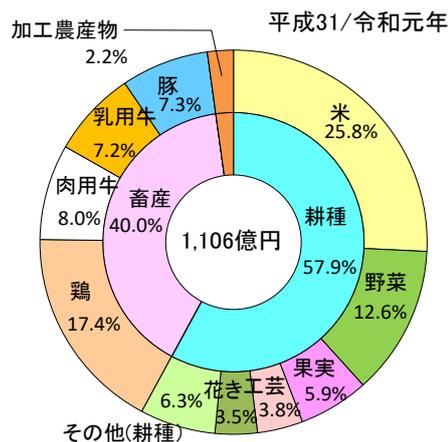
### 農業産出額

平成31/令和元年の農業産出額は1,106億円で、前年に比べ7億円(0.6%)減少しました。

種別割合をみると、耕種57.9%、畜産40.0%、加工農産物2.2%となっています。

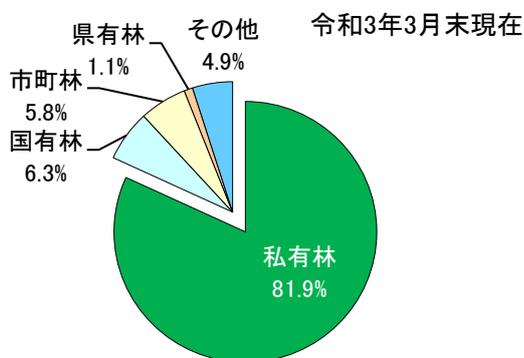
また、品目別では米が最も多く285億円(構成比25.8%)で、以下、鶏192億円(同17.4%)、野菜139億円(同12.6%)、肉用牛89億円(同8.0%)などとなっています。

図17 農業産出額の品目別構成比



資料 農林水産省「生産農業所得統計」

図18 森林保有形態別割合



資料 県農林水産部森林・林業経営課

### 林業

令和3年3月末現在の森林面積は37万2,120haでした。

保有形態別にみると、私有林が30万4,584haと大半を占め、国有林2万3,519ha、市町林2万1,702ha、県有林3,938haなどとなっています。

### 漁業

令和2年の漁業生産量のうち、海面漁業は12万4,667tで、前年に比べ6,321t(4.8%)減少しました。海面養殖業は1万9,972tで、前年に比べ349t(1.7%)減少しました。内水面漁業は82tで前年に比べ34t(29.3%)減少、内水面養殖業は247tで16t(6.9%)増加しました。

また、海面漁業の平成31/令和元年の産出額は24,131百万円で、前年に比べ1,754百万円(6.8%)減少しました。海面養殖業の産出額は18,083百万円で、前年に比べ628百万円(3.4%)減少しました。

図19 漁業生産量(海面)の推移

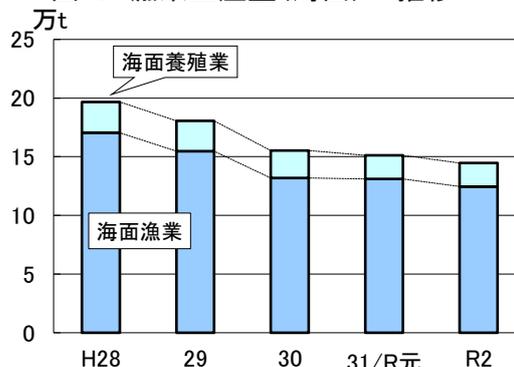
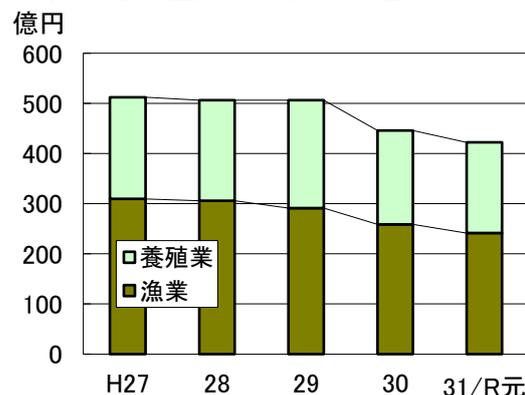


図20 漁業産出額(海面)の推移



資料 農林水産省「漁業産出額」

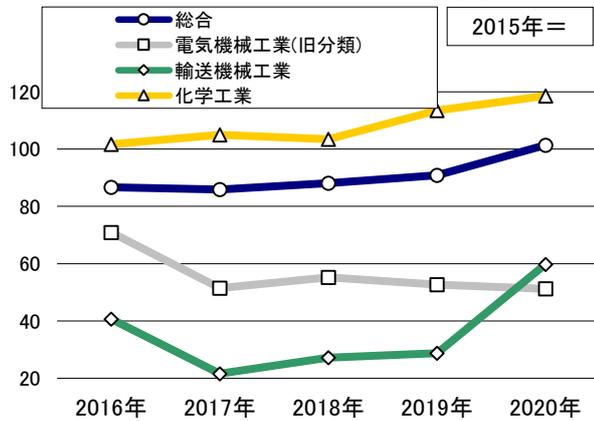
# 鉱工業

## 鉱工業生産の動き

2020年の鉱工業生産指数(原指数)の年平均は100.0(2015年=100)で、対前年比6.2%の減少となりました。

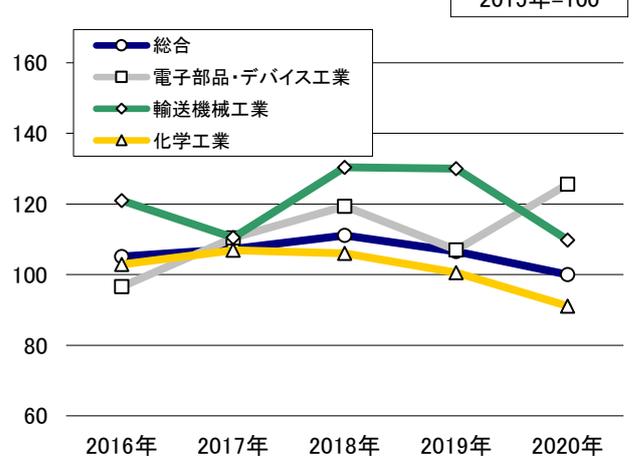
主な業種をみると、電子部品・デバイス工業125.6(対前年比17.4%増)、輸送機械工業109.8(同15.5%減)、化学工業91.1(同9.4%減)となっています。

図22 鉱工業生産者製品在庫指数(原指数)



資料 県戦略企画部統計課  
「鉱工業生産及び生産者製品在庫の動き」

図21 鉱工業生産指数(原指数)



資料 県戦略企画部統計課  
「鉱工業生産及び生産者製品在庫の動き」

2020年鉱工業生産者製品在庫指数(原指数)の年平均は101.4(2015年=100)で、対前年比11.6%の増加となりました。

主な業種をみると、電子部品・デバイス工業を含む電気機械工業(旧分類)51.2(対前年比2.8%減)、輸送機械工業59.8(同108.4%増)、化学工業118.6(同4.5%増)となっています。

## 2020年工業統計調査結果

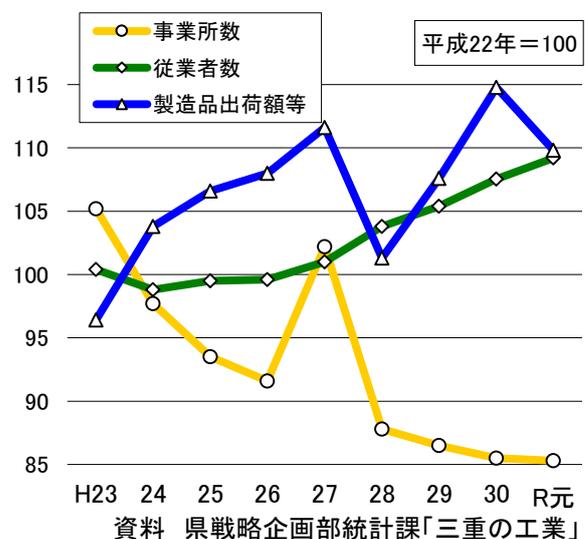
### (従業者数4人以上の事業所が対象)

#### (1) 概況

令和2年6月1日現在の事業所数、従業者数、平成31/令和元年1年間の製造品出荷額等を指数(平成22年=100)で見ると、事業所数85.3(対前年比0.2%減)、従業者数109.2(同1.6%増)、製造品出荷額等109.8(同4.4%減)となっています。

※図23の事業所数、従業者数：平成24, 25, 26年は当該年12月31日現在、平成23年は平成24年2月1日現在、平成27年以降は翌年6月1日現在の数値。

図23 事業所数、従業者数、製造品出荷額等の指数



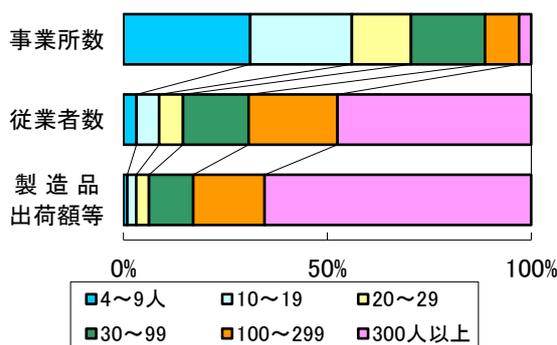
資料 県戦略企画部統計課「三重の工業」

## (2) 従業者規模別にみた工業のすがた

令和2年6月1日現在の事業所数、従業者数及び平成31/令和元年1年間の製造品出荷額等を従業者規模別で見ると、事業所は従業者規模の小さいものが大半で、従業者4～9人の小規模事業所が構成比で全体の31.1%(1,057事業所)を占めていますが、従業者数では同3.2%(6,693人)、製造品出荷額等では同0.9%(1,011億円)となっています。

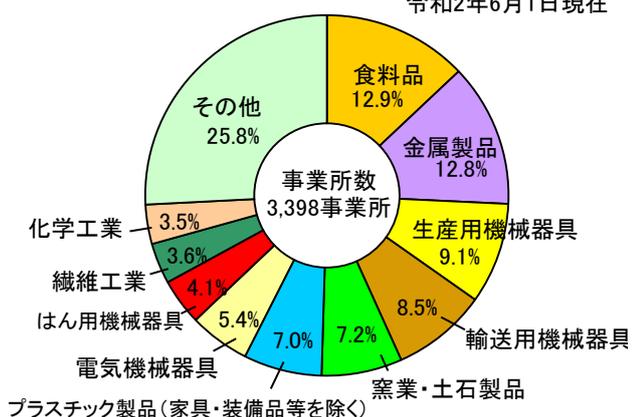
これに対して、従業者300人以上の大規模事業所は構成比で全体の3.0%(102事業所)ですが、従業者数では同47.5%(9万8,665人)、製造品出荷額等では同65.4%(7兆45億円)を占めています。

図24 従業者規模別状況

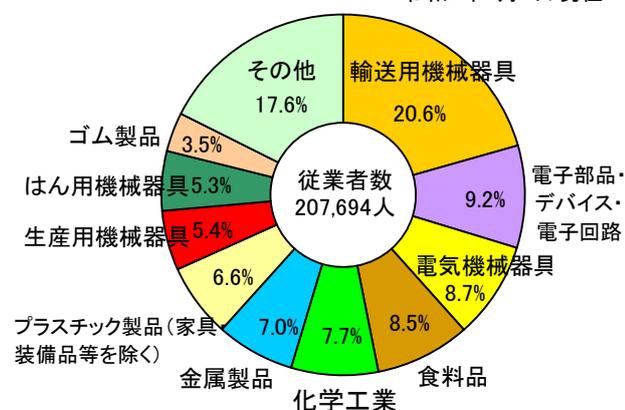


資料 県戦略企画部統計課「三重の工業」

図25 業種別事業所数・従業者数、製造品出荷額等割合  
令和2年6月1日現在



令和2年6月1日現在

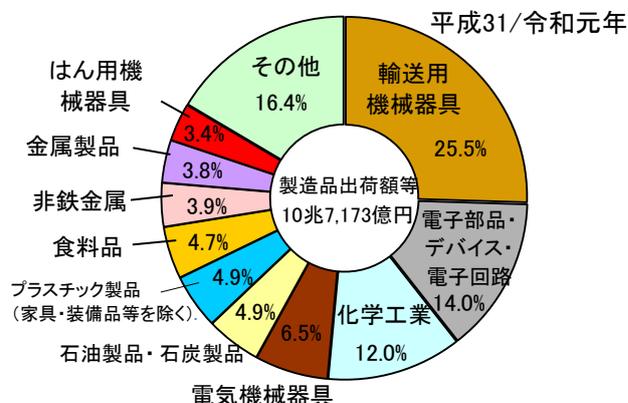


## (3) 業種別にみた工業のすがた

事業所数では食料品製造業の占める割合が12.9%(439事業所)で最も高く、次いで金属製品製造業が12.8%(436事業所)、生産用機械器具製造業が9.1%(308事業所)などとなっています。

従業者数では、輸送用機械器具製造業が20.6%(4万2,742人)、電子部品・デバイス・電子回路製造業が9.2%(1万9,039人)、電気機械器具製造業が8.7%(1万8,045人)などとなっています。

製造品出荷額等では、輸送用機械器具製造業が25.5%(2兆7,320億円)と最も高く、次いで電子部品・デバイス・電子回路製造業が14.0%(1兆4,957億円)、化学工業12.0%(1兆2,879億円)などとなっています。



資料 県戦略企画部統計課「三重の工業」

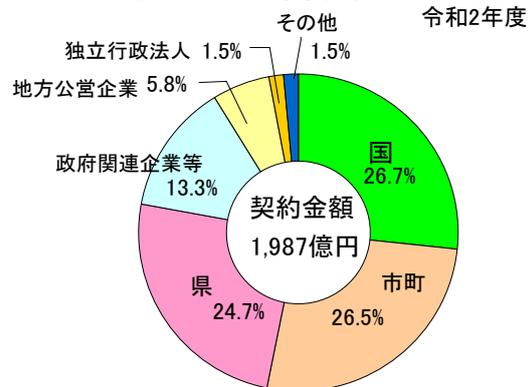
## 建設・住宅

### 公共工事

令和2年度の公共工事の件数は2,589件で、前年度に比べ218件(7.8%)減少しました。契約額は1,987億円で前年度に比べ159億円(7.4%)減少しました。

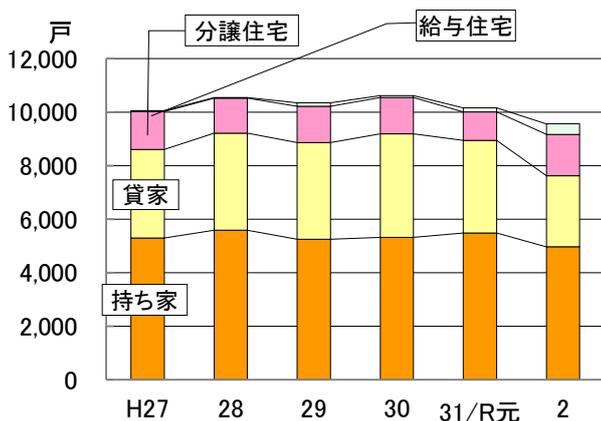
発注者別の契約額割合で見ると、国26.7%(530億円)、市町26.5%(526億円)、県24.7%(491億円)、政府関連企業等13.3%(265億円)、独立行政法人1.5%(29億円)、地方公営企業5.8%(116億円)、その他1.5%(30億円)となっています。

図26 発注者別公共工事費割合



資料 国土交通省「建設工事受注動態統計調査報告」

図27 利用関係別着工新設住宅の推移



資料 国土交通省「建築着工統計調査」

### 住宅着工

令和2年中に着工された新設住宅は9,558戸で、前年に比べ604戸(5.9%)減少しました。

利用関係別にみると、持ち家4,965戸(構成比51.9%)、貸家2,659戸(同27.8%)、分譲住宅1,545戸(同16.2%)、給与住宅389戸(同4.1%)となっています。

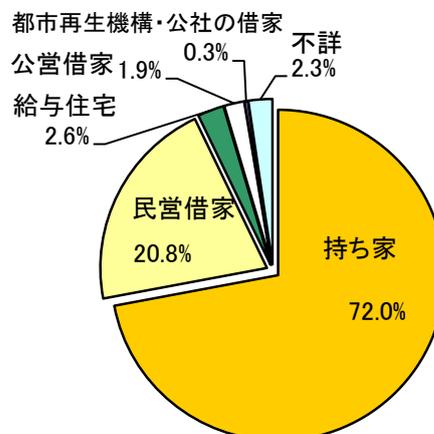
### 住宅数

平成30年10月1日現在(住宅・土地統計調査)の住宅総数は85万3,700戸となりました。

また、住宅総数のうち居住世帯のある住宅総数72万戸について住宅の所有関係別にみると、持ち家51万8,700戸(構成比72.0%)、民営借家15万戸(同20.8%)、給与住宅1万8,400戸(同2.6%)、公営借家1万4,000戸(同1.9%)などとなっています。

※給与住宅：会社や官公庁が、その従業員、職員を居住させる住宅(社宅、公務員住宅等)

図28 所有関係別住宅数 平成30年10月1日現在



資料 総務省「住宅・土地統計調査報告」

# エネルギー・水道

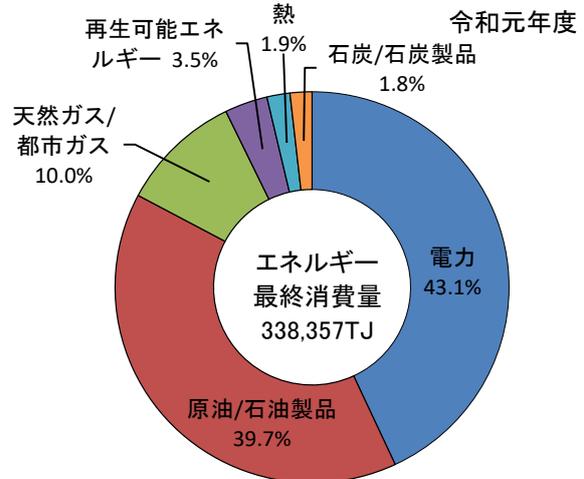
## エネルギー

令和元年度の最終エネルギー消費量は33万8,357TJ(テラジュール)でした。

エネルギー種別では電力43.1%(14万5,705TJ)、原油/石油製品39.7%(13万4,398TJ)、天然ガス/都市ガス10.0%(3万3,888TJ)が多く使われており、これらで92.8%を占めています。

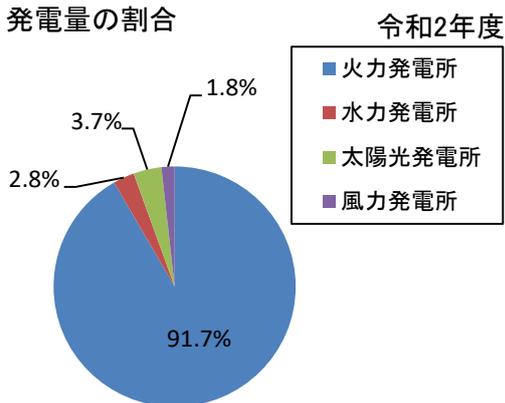
また、業種別でエネルギーの消費が多いのは製造業で、65.7%(22万2,190TJ)を消費しています。

図29 エネルギー種別最終エネルギー消費量



資料 資源エネルギー庁「都道府県別エネルギー消費統計」

図30 発電量の割合



資料 資源エネルギー庁「電力調査統計」

## 電気

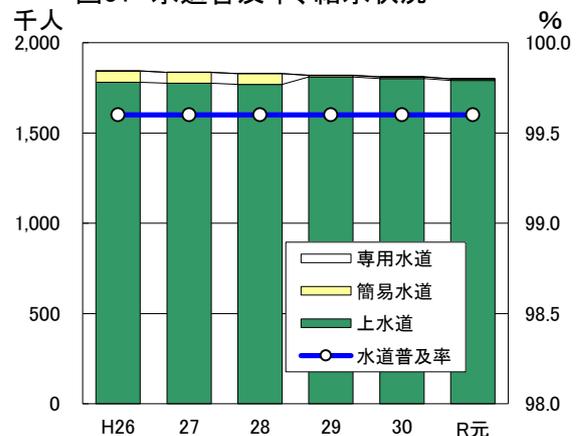
令和2年度の発電実績は226億33万kWhでした。発電所別では、火力発電所91.7%(207億1,669万kWh)、水力発電所2.8%(6億3,930万kWh)、太陽光発電所3.7%(8億4,743万kWh)、風力発電所1.8%(3億9,690万kWh)となっています。

## 水道

令和元年度末現在の水道普及率は99.6%(給水人口180万人)で前年度からほぼ横ばいでした。普及の内訳をみると、上水道99.1%(同179万人)、簡易水道0.4%(同8千人)、専用水道0.1%(同1千人)となっています。

また、上水道の年間給水量をみると、令和元年度は2億4,983万m<sup>3</sup>で、前年度に比べ0.9%減少しました。なお、1日最大給水量は77万m<sup>3</sup>、1人1日当たり最大給水量は427リットルとなっています。

図31 水道普及率、給水状況



資料 県環境生活部大気・水環境課

## 運輸・通信

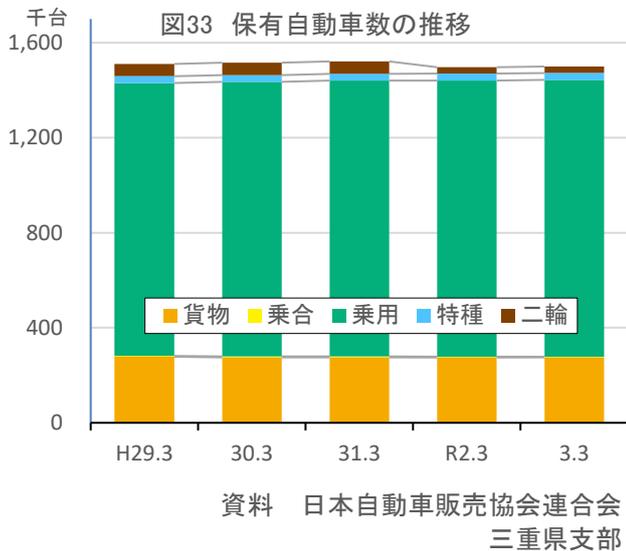
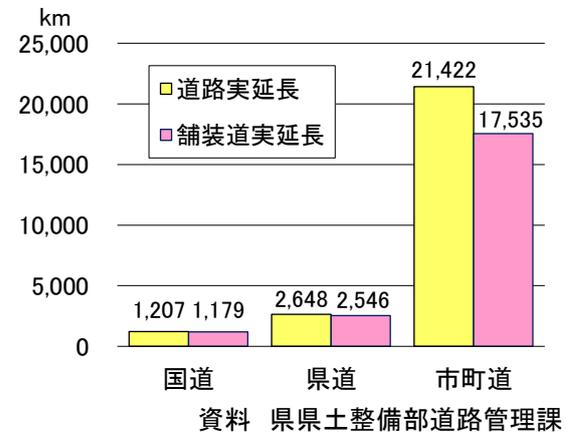
### 道路

令和2年4月1日現在の道路実延長は、国道1,207km、県道2,648km、市町道2万1,422kmで、前年と比べると、国道は0.9km(0.1%)増加、県道は9.0km(0.3%)減少、市町道は35.5km(0.2%)増加しています。

道路の改良状況をみると、改良済は、国道1,123km、県道1,897km、市町道1万967kmとなっています。

また、舗装道実延長は、国道1,179km、県道2,546km、市町道1万7,535kmとなっています。

図32 道路実延長状況 令和2年4月1日現在



### 自動車

令和3年3月31日現在の自動車保有台数は149万9,760台で、前年に比べ2,892台(0.2%)増加しました。

車種別にみると、乗用車が116万4,887台(構成比77.7%)で最も多く、次いで貨物自動車27万5,422台(同18.4%)、特種(殊)用途車2万8,819台(同1.9%)などとなっています。

※軽自動車を含む。

※令和2年3月末以降の二輪車数に軽二輪車は含まれない。

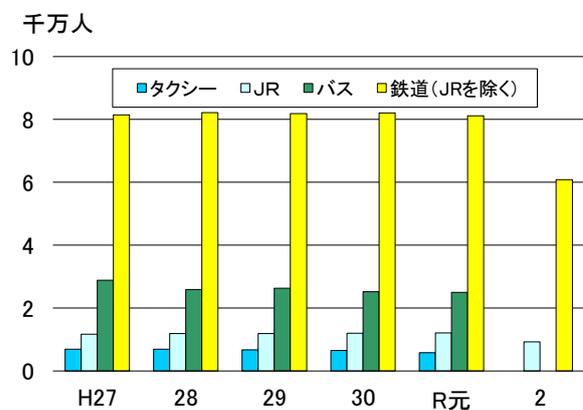
(参考：平成31年3月末 軽二輪車数25,881台)

### 公共輸送機関

令和元年度の乗合バス・タクシーの年間利用者数は、乗合バスが2,505万1千人、タクシーが580万3千人で、前年度と比べると、乗合バスは18万5千人減少、タクシーは70万1千人減少しています。

令和2年度の鉄道の年間利用者数は、JRが925万1千人、JR以外が6,089万5千人で、前年度に比べると、JRは282万7千人、JR以外は2,021万8千人減少しています。

図34 公共輸送機関の年間利用者数の推移



資料 中部運輸局、各事業体

## 商業・貿易・金融

### 卸売・小売業(事業所数、従業者数等)

平成28年6月1日現在の卸売業の事業所数は3,302事業所、従業者数は2万5,629人、年間商品販売額は1兆8,711億円となっています。

また、卸売業の従業者数を業種別にみると、飲食料品卸売業が7,155人(構成比27.9%)で最も多くを占めています。

一方、小売業の事業所数は1万2,922事業所、従業者数は9万3,666人、年間商品販売額は1兆9,126億円となっています。

また、小売業の従業者数を業種別にみた場合、飲食料品小売業が3万5,313人(構成比37.7%)で最も多くを占めています。

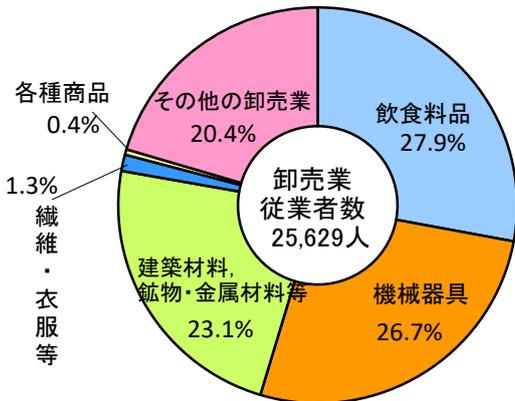
### 業種別年間商品販売額

平成27年の年間商品販売額を業種別にみると、卸売業は建築材料、鉱物・金属材料等卸売業が5,187億円(構成比27.7%)で最も多く、次いで機械器具卸売業5,096億円(同27.2%)、飲食料品卸売業4,603億円(同24.6%)と続いています。

小売業は飲食料品小売業が5,523億円(構成比28.9%)で最も多く、次いで機械器具小売業4,185億円(同21.9%)などとなっています。

図35 卸売業の従業者数の産業分類別構成

平成28年6月1日現在



資料 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

図37 卸売・小売業の年間商品販売額の産業分類別構成

平成27年

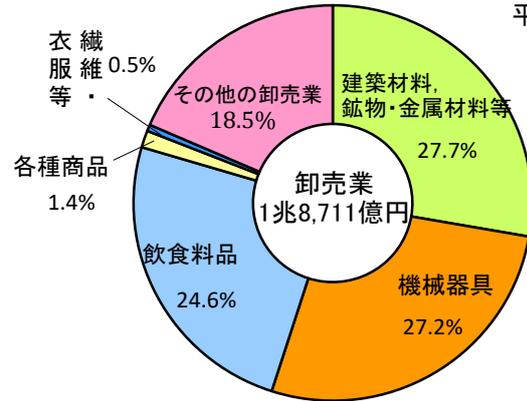
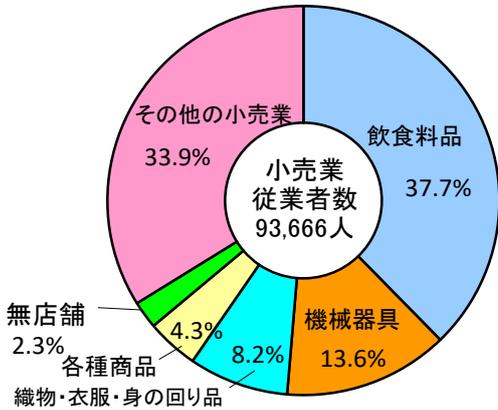


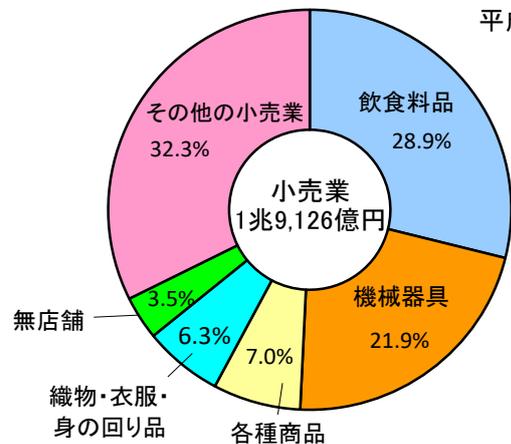
図36 小売業の従業者数の産業分類別構成

平成28年6月1日現在



資料 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

平成27年



資料 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

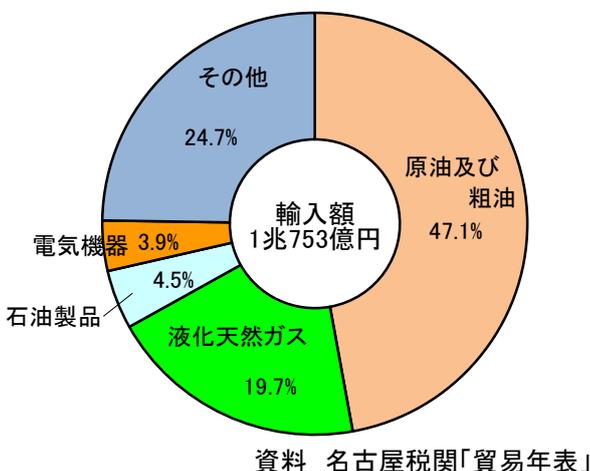
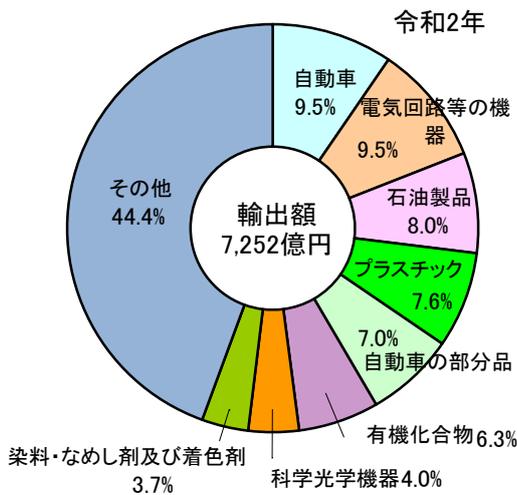
貿易

輸出・輸入ともに本県の大半个を占める四日市港の令和2年の貿易状況をみると、輸出額は7,252億円で前年に比べ1,109億円(13.3%)減少し、輸入額は1兆753億円で前年に比べ5,116億円(32.2%)減少しました。

品目別でみると、輸出は自動車690億円(構成比9.5%)で最も多く、次いで電気回路等の機器688億円(同9.5%)、石油製品577億円(同8.0%)の順となっています。

輸入は原油及び粗油が5,069億円(構成比47.1%)で最も多く、次いで液化天然ガス2,122億円(同19.7%)、石油製品486億円(同4.5%)の順となっています。

図38 四日市港の品目別貿易状況



金融、企業倒産

令和3年3月31日現在の預貯金残高は、16兆3,299億円となり、前年に比べ9,359億円(6.1%)増加しました。貸出残高は、5兆5,291億円となり前年に比べ2,999億円(5.7%)増加しました。

令和3年の企業倒産件数は72件となり、前年に比べ6件(9.1%)増加しました。負債総額は102億円となり39億円(27.8%)減少しました。

図39 預貯金・貸出残高の推移

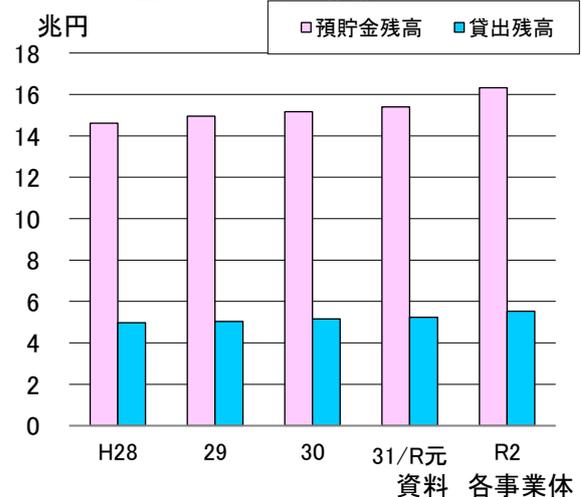
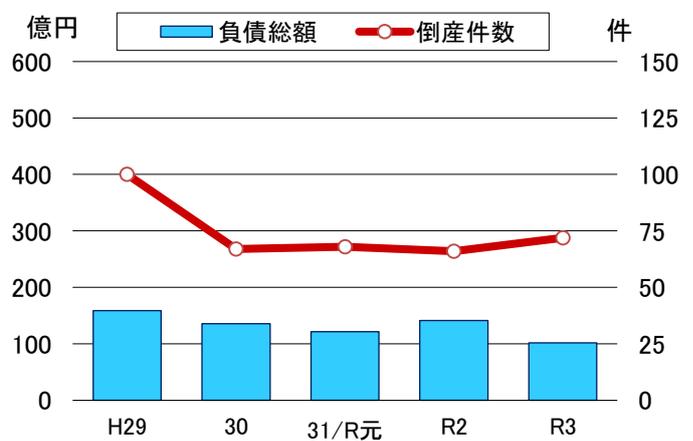


図40 企業倒産状況の推移



資料 (株)東京商工リサーチ津支店

## 物価・家計

### 実収入と消費支出の内訳

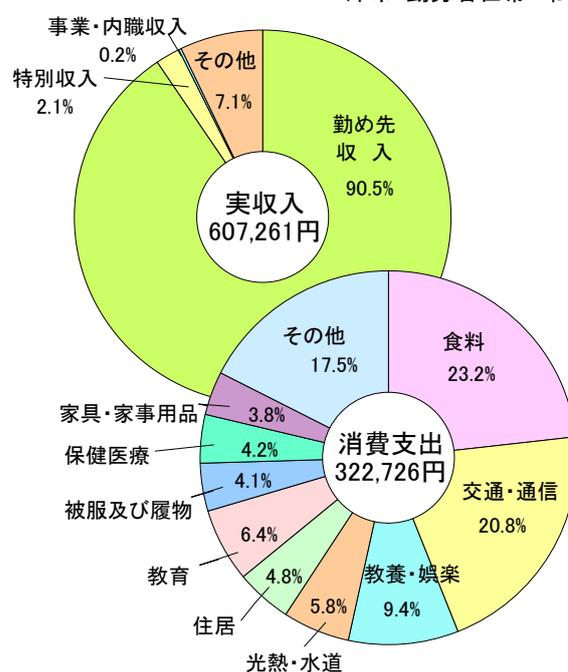
令和3年の津市の勤労者世帯1世帯当たり年平均1か月間の実収入（60万7,261円）の内訳をみると勤め先収入が90.5%（54万9,862円）を占めています。

また、消費支出（32万2,726円）を品目別にみると食料の占める割合が最も大きく23.2%（7万4,914円）を占めており、次いで交通・通信20.8%（6万7,042円）、教養・娯楽9.4%（3万467円）などとなっています。

※二人以上の世帯のうち勤労者世帯の値。

図41 1世帯当たり年平均1か月間の収入と支出

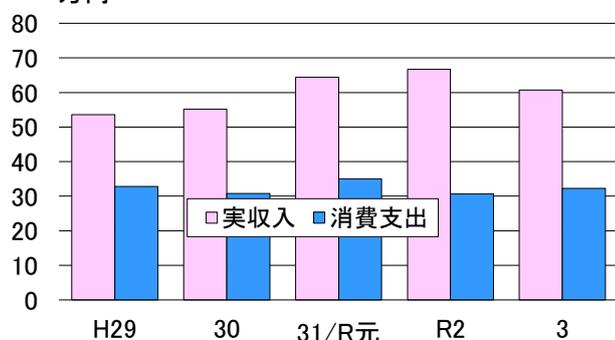
津市・勤労者世帯 令和3年



資料 総務省「家計調査結果」

図42 実収入と消費支出の推移

万円 津市・勤労者世帯・月額



資料 総務省「家計調査結果」

### 消費者物価

令和2年の三重県（津市）の消費者物価指数は、平成27年を100とした総合指数で101.3となりました。

総合指数の対前年上昇率の推移をみると、平成31/令和元年では0.2%の上昇、令和2年では0.1%の下降となりました。

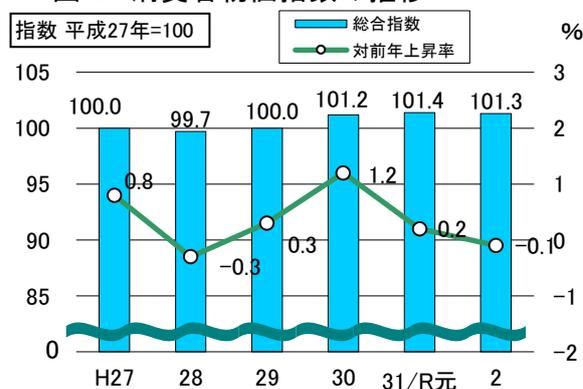
### 家計

令和3年の津市の勤労者世帯1世帯当たり1か月平均の実収入は、60万7,261円で、前年に比べ5万9,951円（9.0%）減少しました。

また、1世帯当たり1か月平均の消費支出は32万2,726円で、前年に比べ1万6,262円（5.3%）増加しました。

※二人以上の世帯のうち勤労者世帯の値。

図43 消費者物価指数の推移



資料 総務省統計局「消費者物価指数」

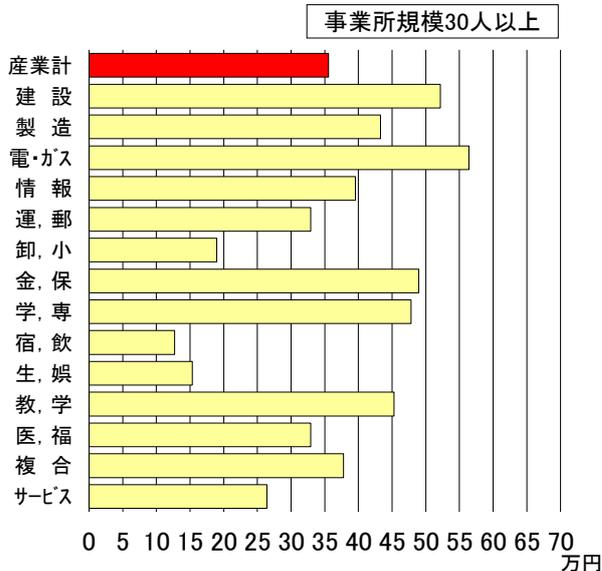
# 労働

## 賃金

令和2年の常用労働者の1人平均月間現金給与総額(事業所規模30人以上の事業所)は35万5,574円でした。

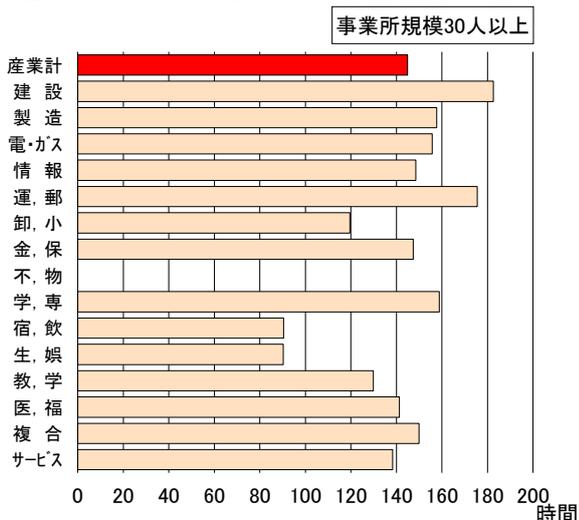
産業別にみると、電気・ガス・熱供給・水道業が56万4,052円で最も高く、次いで建設業の52万1,353円、金融業、保険業の48万9,539円の順となっており、宿泊業、飲食サービス業が12万7,279円で最も低くなっています。

図44 産業別1人平均月間現金給与総額(R2年)



資料 県戦略企画部統計課「毎月勤労統計調査」

図45 産業別1人平均月間総実労働時間(R2年)



資料 県戦略企画部統計課「毎月勤労統計調査」

## 労働時間数

令和2年の常用労働者の1人平均月間総実労働時間数(事業所規模30人以上の事業所)は144.9時間でした。

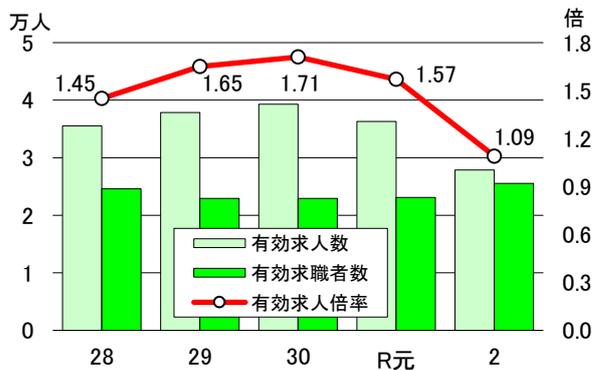
産業別にみると、建設業が182.6時間で最も長く、次いで運輸業、郵便業の175.6時間、学術研究、専門・技術サービス業の158.8時間の順になっており、生活関連サービス業、娯楽業が90.3時間で最も短くなっています。

## 雇用

令和2年度の年度平均月間有効求人数は2万7,874人で、前年度に比べ8,415人(23.2%)減少し、年度平均月間有効求職者数は2万5,510人で、2,401人(10.4%)増加しました。

有効求人数を有効求職者数で割った有効求人倍率は1.09倍で、前年度に比べ0.48ポイント減少しました。

図46 雇用動向の推移



注) 新規学校卒業者は除き、パートタイムは含む。

資料 三重労働局職業安定部「労働市場年報」

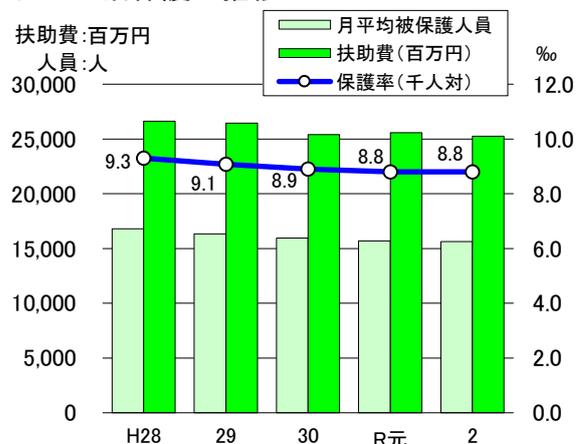
# 社会保障

## 生活保護

令和2年度の月平均生活保護被保護人員は1万5,646人で、前年度に比べ39人(0.2%)減少しました。人口千人当たりの保護率は8.8となっています。

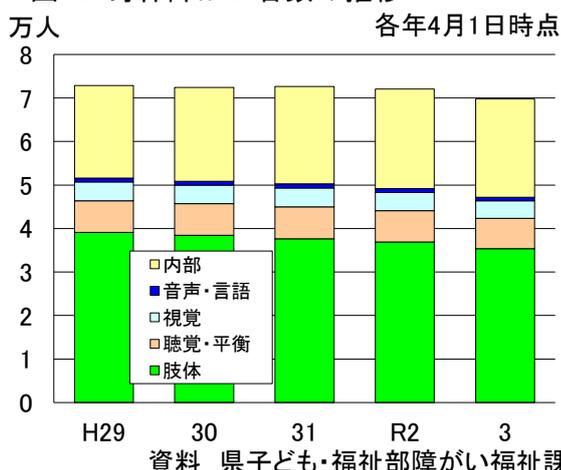
また、扶助費支出総額は252億3,654万円で、前年度に比べ3億3,826万円(1.3%)減少しました。扶助費を費目別にみると、医療扶助が137億1,556万円で最も多く、54.3%を占めています。

図47 生活保護の推移



資料 県子ども・福祉部地域福祉課

図48 身体障がい者数の推移



資料 県子ども・福祉部障がい福祉課

## 医療費総額

令和2年度の国民健康保険医療費(療養諸費合計)の総額は1,486億4百万円となり、前年度に比べ76億48百万円減少しています。

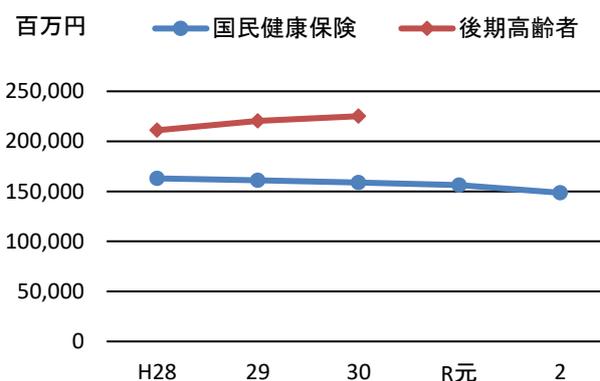
また、平成30年度の後期高齢者医療費の総額は2,251億18百万円となり、前年度に比べ47億22百万円増加しています。

## 身体障がい者

令和3年4月1日時点の身体障害者手帳交付者数は6万9,760人で、前年に比べ2,291人減少しています。

障がい別にみると、肢体不自由が3万5,333人で全体の50.6%を占め、次いで、内部障がい2万2,552人(32.3%)、聴覚・平衡機能障がい7,033人(10.1%)などとなっています。

図49 医療費総額の推移



資料 県医療保健部国民健康保険課

# 健康・医療・環境

## 医療施設数

令和2年10月1日現在の医療施設数は、病院93施設、一般診療所1,504施設、歯科診療所816施設で、前年に比べると、一般診療所15施設、歯科診療所6施設がそれぞれ減少しました。

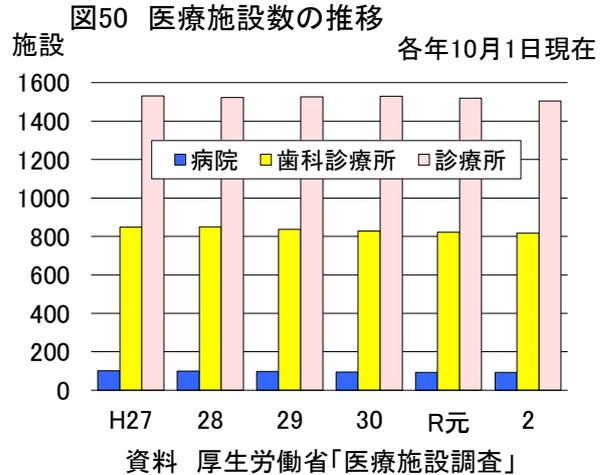
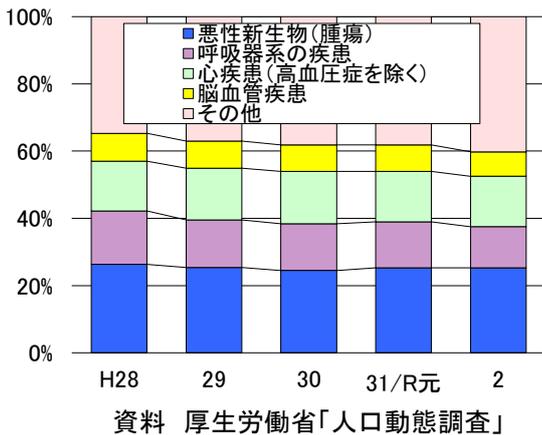


図51 主要死因別死亡割合の推移



## 死亡要因

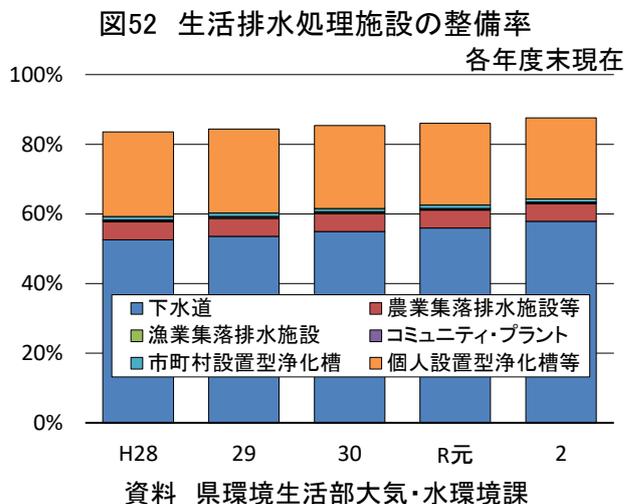
令和2年中の死亡者数は2万716人で、前年に比べ95人減少しました。

主要死因別の割合をみると、悪性新生物（腫瘍）が5,231人（構成比25.3%）で最も多く、次いで心疾患（高血圧症を除く）3,108人（同15.0%）、呼吸器系の疾患2,534人（同12.2%）、脳血管疾患1,513人（同7.3%）などとなっています。

## 生活排水処理施設の整備率

令和2年度末の下水道や浄化槽等による生活排水の処理が可能な人口は157万1,319人、住民基本台帳人口に対する人口（整備率）は87.6%で、前年度末より1万6,918人増加し、整備率は1.6ポイント上昇しています。

処理施設別の整備率は、下水道が57.8%、個人設置型浄化槽等が23.2%などとなっています。

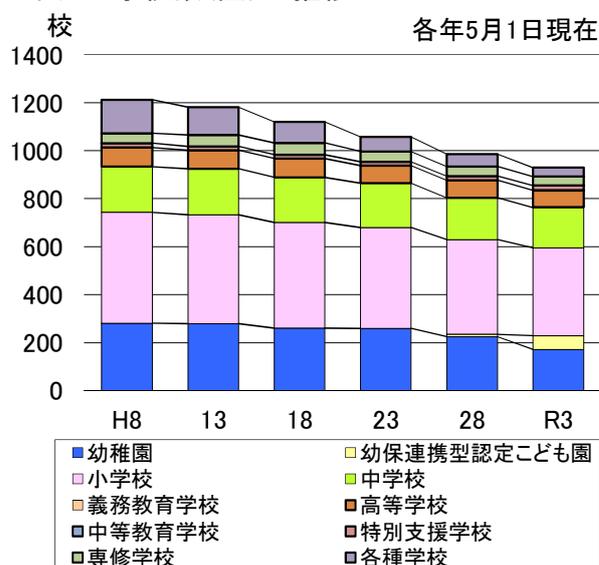


## 教育・文化

### 学校(園)数

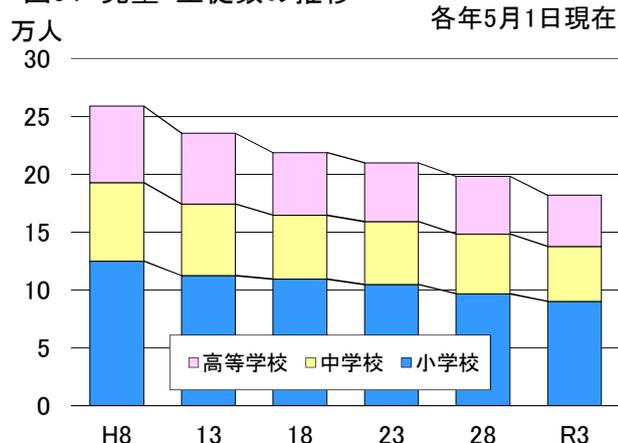
令和3年5月1日現在の学校(園)数は、幼稚園172園、幼保連携型認定こども園57園、小学校366校、中学校168校、義務教育学校1校、高等学校70校、中等教育学校1校、特別支援学校20校、専修学校37校、各種学校37校で、令和2年と比べると、幼稚園7園、小学校6校がそれぞれ減少し、幼保連携型認定こども園3園が増加しました。

図53 学校数(園)の推移



資料 県戦略企画部統計課「学校基本調査」

図54 児童・生徒数の推移



資料 県戦略企画部統計課「学校基本調査」

### 児童・生徒数(小・中・高)

令和3年5月1日現在の児童・生徒数は、小学校9万40人(男4万6,113人、女4万3,927人)、中学校4万7,567人(男2万4,180人、女2万3,387人)、高等学校4万4,229人(男2万2,213人、女2万2,016人)で、令和2年と比べると、小学校が1,870人(2.0%)、高等学校が1,600人(3.5%)それぞれ減少し、中学校が95人(0.2%)増加しました。

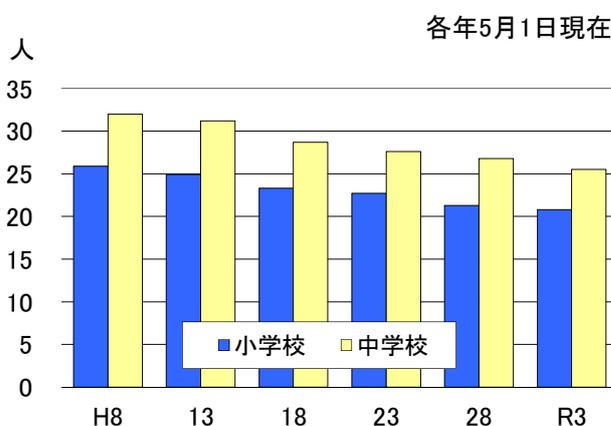
### 学級数及び1学級当たりの児童・生徒数

(小・中)

令和3年5月1日現在の学級数は、小学校4,336学級、中学校1,867学級で、令和2年と比べると、小学校が29学級(0.7%)減少、中学校が38学級(2.1%)増加しました。

1学級当たりの児童・生徒数は、小学校20.8人、中学校25.5人で、令和2年と比べると、小学校は0.3人(1.4%)、中学校は0.5人(1.9%)減少しました。

図55 1学級当たりの児童・生徒数



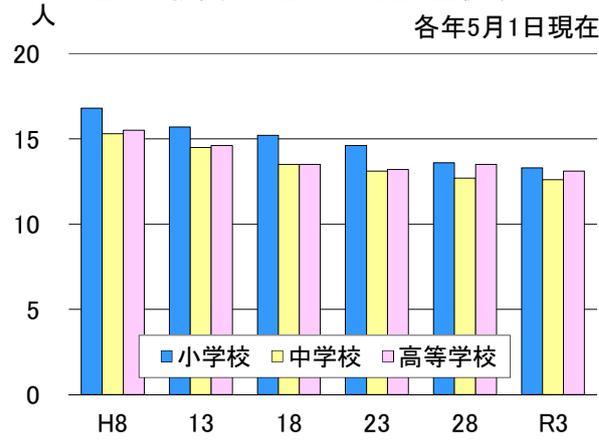
資料 県戦略企画部統計課「学校基本調査」

### 教員数及び教員1人当たりの児童・生徒数 (小・中・高)

令和3年5月1日現在の本務教員数は、小学校6,779人(男2,411人、女4,368人)、中学校3,775人(男2,078人、女1,697人)、高等学校3,374人(男2,208人、女1,166人)で、令和2年に比べると、小学校が68人、高等学校が98人それぞれ減少し、中学校が3人増加しました。

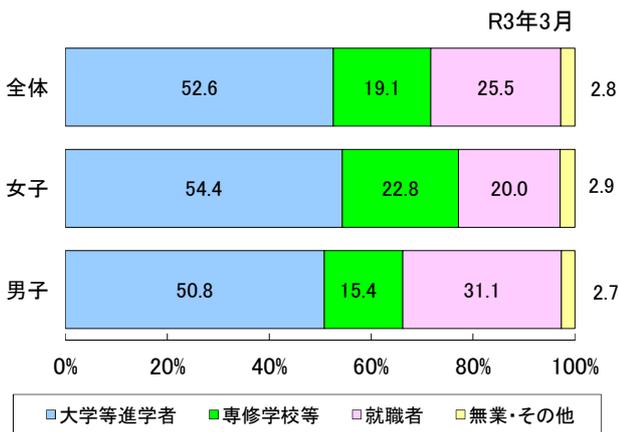
教員1人当たりの児童・生徒数は、小学校13.3人、中学校12.6人、高等学校13.1人で、令和2年と比べると、小学校は0.1人、高等学校は0.1人それぞれ減少しましたが、中学校は増減がありませんでした。

図56 教員1人当たり児童・生徒数  
各年5月1日現在



資料 県戦略企画部統計課「学校基本調査」

図57 男女別高等学校卒業者の進路別構成



資料 県戦略企画部統計課「学校基本調査」

### 高等学校卒業者の進路状況

令和3年3月の高等学校卒業生総数は1万5,116人(男子7,590人、女子7,526人)で、令和2年に比べると、268人(1.7%)減少しました。

卒業後の進路別構成比をみると、大学・短期大学等への進学者(就職進学者を含む)7,949人、専修学校等への入学者(就職入学者を含む)2,884人、就職者3,860人、その他(臨時労働者等、無業者、死亡・不明)423人となっています。

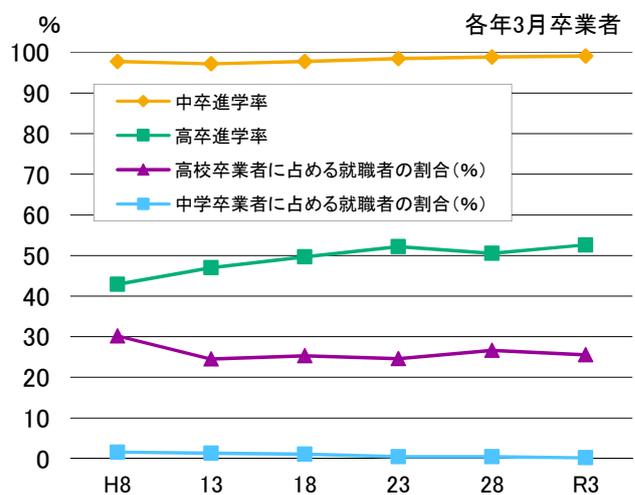
### 進学率、卒業者に占める就職者の割合

令和3年3月の中学校卒業生(1万5,615人)の高等学校等への進学率は99.1%で、令和2年と比べると、0.3ポイント上昇しました。

また、高等学校卒業生の大学・短期大学等への進学率は52.6%で、令和2年と比べると、1.5ポイント上昇しました。

さらに、卒業者に占める就職者の割合は、令和2年と比べると、中学卒業生が0.2%で0.1ポイント、高等学校卒業生が25.5%で1.5ポイントそれぞれ下降しました。

図58 進学率、卒業者に占める就職者の割合の推移



資料 県戦略企画部統計課「学校基本調査」

# 観 光

## 観 光

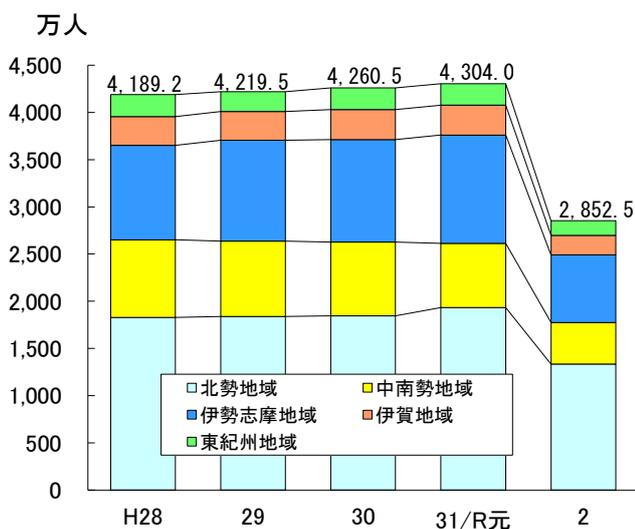
令和2年の観光レクリエーション入込客は、実数で2,852万5,000人と推計され、前年に比べると、1,451万5,000人(33.7%)減少しました。

入込客数を地域別にみると、北勢地域が1,334万4,000人、中南勢地域が441万2,000人、伊勢志摩地域が714万4,000人、伊賀地域が209万人、東紀州地域が153万5,000人となりました。

また、対前年比増減人数は、北勢地域が598万6,000人(31.0%)、中南勢地域が237万8,000人(35.0%)、伊勢志摩地域が434万4,000人(37.8%)、伊賀地域が106万8,000人(33.8%)、東紀州地域が73万9,000人(32.5%)それぞれ減少となりました。

- ・北勢地域：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曾岬町、東員町、菟野町、朝日町、川越町
- ・中南勢地域：津市、松阪市、多気町、明和町、大台町、大紀町
- ・伊勢志摩地域：伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、度会町、玉城町
- ・伊賀地域：伊賀市、名張市
- ・東紀州地域：尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町

図59 地域別観光レクリエーション入込客数の推移



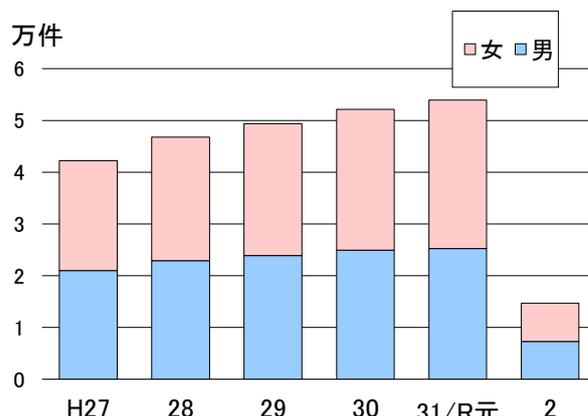
資料 県雇用経済部観光局観光政策課

## 旅券発行数

令和2年に発行した旅券は、1万4,680件(男7,316件、女7,364件)で、前年に比べると、3万9,269件(72.8%)減少しました。

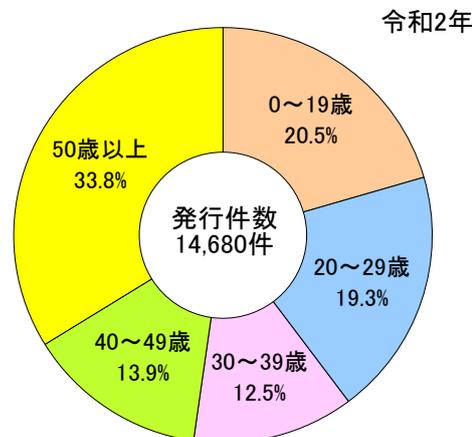
年齢別割合をみると、20歳未満が3,009件、20歳代が2,828件、30歳代が1,834件、40歳代が2,046件、50歳以上が4,963件となっています。

図60 男女別旅券発行件数の推移



資料 県環境生活部環境生活総務課

図61 年齢階層別旅券発行件数



資料 県環境生活部環境生活総務課

# 県民経済計算

## 県内総生産

平成30年度の県内総生産は名目で8兆4,114億円、実質で8兆2,620億円となり、対前年度比(経済成長率)は名目1.6%、実質2.8%の増加となりました。

※08SNA(国民経済計算体系)による「県民経済計算推計方法ガイドライン」に基づき推計したものです。

図62 県内総生産の推移

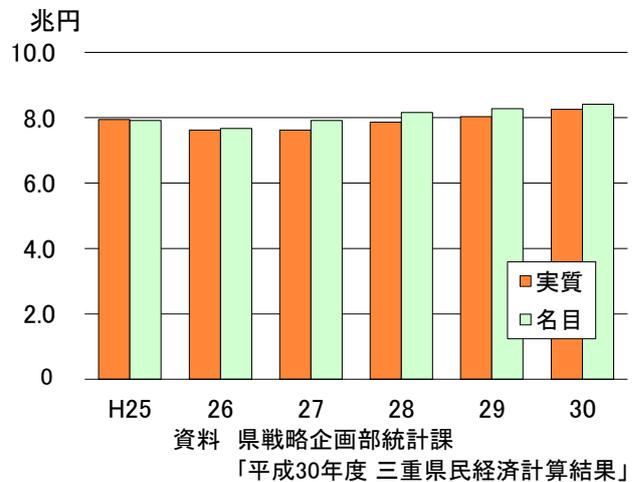
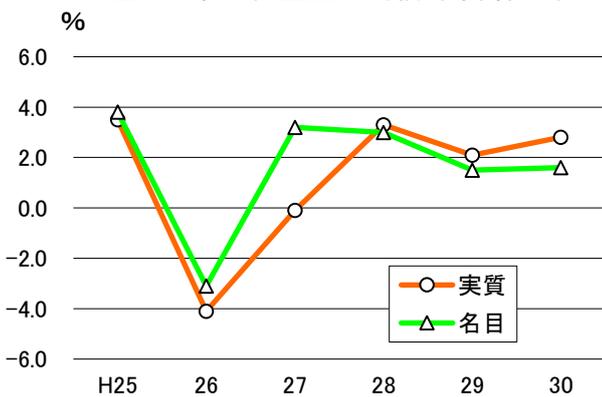


図63 県内総生産の対前年度増加率



資料 県戦略企画部統計課  
「平成30年度 三重県民経済計算結果」

## 県内総生産(支出側)

平成30年度の県内総生産(名目)の8兆4,114億円を支出側から見てみると、民間最終消費支出は名目で3兆8,712億円となり、対前年度比は0.6%の減少となりました。

また、政府最終消費支出は名目で1兆1,469億円となり、対前年度比は1.6%の増加、県内総資本形成は名目で2兆3,046億円となり、対前年度比は16.4%の増加となりました。

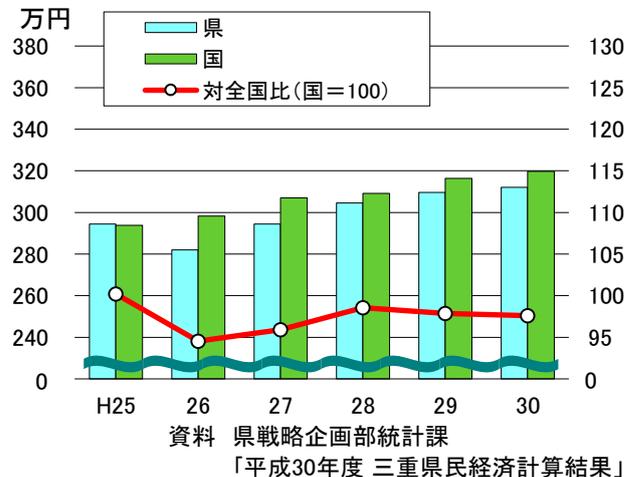
## 県民所得(分配)

平成30年度の県民所得は5兆5,907億円で、対前年度比は0.3%の増加となりました。

県民所得の67.9%を占める県民雇用者報酬は3兆7,942億円で、対前年度比は1.4%の増加となりました。

また、1人当たりの県民所得は312万1,000円で、対前年度比は0.8%の増加となりました。1人当たりの国民所得は319万8,000円で全国を100とした値は97.6となり、前年度より0.3ポイント下がりました。

図64 1人当たり県民所得の推移



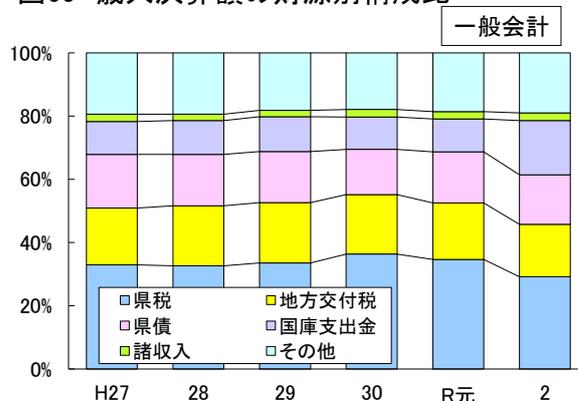
# 財政

## 歳入

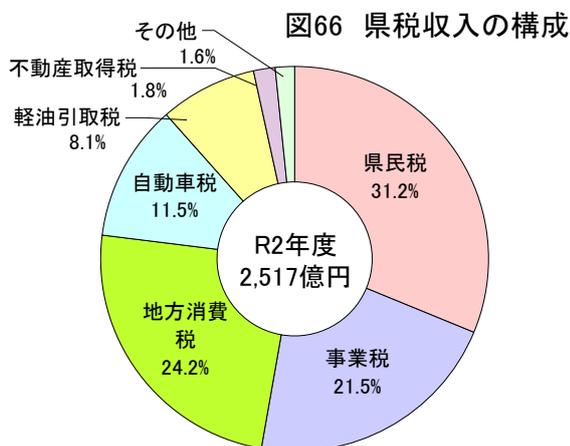
令和2年度の一般会計歳入決算額は8,633億円で前年度に比べると、1,303億円(17.8%)増加しました。

財源別にみると、県税2,517億円(構成比29.2%)、国庫支出金1,487億円(同17.2%)、地方交付税1,431億円(同16.6%)、県債1,352億円(同15.7%)などとなっています。

図65 歳入決算額の財源別構成比



資料 県出納局



資料 県総務部税務企画課

## 県税

令和2年度の県税収入額は2,517億円で、前年度に比べると、26億円(1.0%)減少しました。

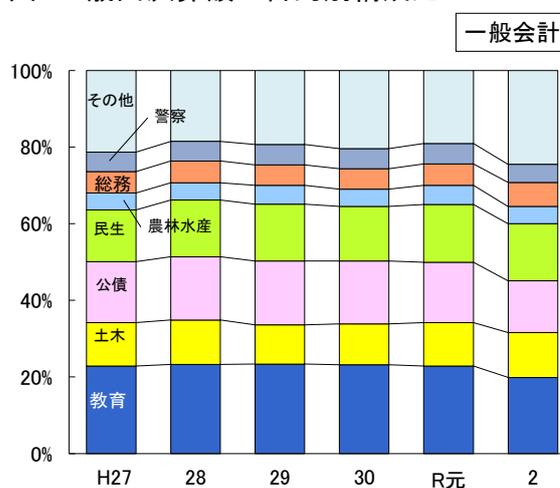
税目別にみると、県民税786億円(構成比31.2%)、事業税541億円(同21.5%)、地方消費税609億円(同24.2%)、自動車税290億円(同11.5%)、軽油引取税204億円(同8.1%)、不動産取得税47億円(同1.8%)などとなっています。

## 歳出

令和2年度の一般会計歳出決算額は8,218億円で前年度に比べると、1,115億円(15.7%)増加しました。

目的別にみると、教育費1,633億円(構成比19.9%)、民生費1,225億円(同14.9%)、公債費1,111億円(同13.5%)、土木費962億円(同11.7%)、衛生費603億円(同7.3%)、総務費517億円(同6.3%)、警察費386億円(同4.7%)、農林水産業費368億円(同4.5%)などとなっています。

図67 歳出決算額の目的別構成比



資料 県出納局

※衛生費はその他に含む。

なお、衛生費は前年度から333億円(123.8%)増加しました。

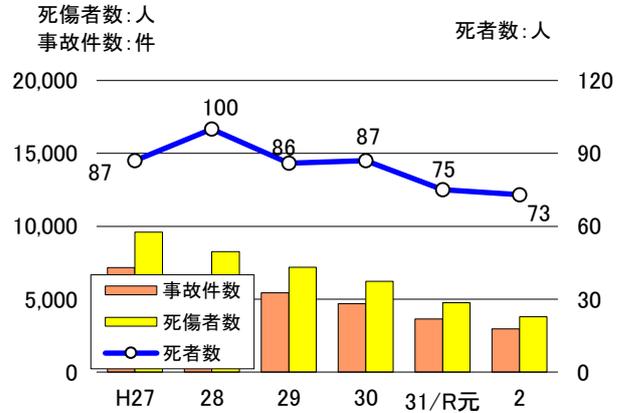
# 交通事故・犯罪・災害

## 交通事故

令和2年の交通事故(人身事故)は、発生件数2,966件、死傷者数3,805人うち死者数73人となりました。

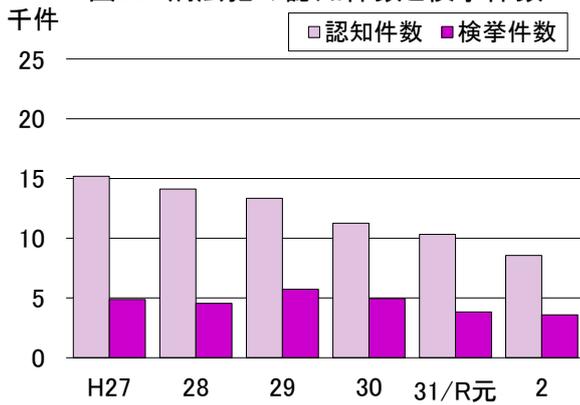
前年に比べると、発生件数681件(18.7%)、死傷者数958人(20.1%)、死者数2人(2.7%)がそれぞれ減少しました。

図68 交通事故(人身事故)の動向



資料 県警察本部「三重の交通統計」

図69 刑法犯の認知件数と検挙件数



資料 県警察本部「犯罪統計書」

## 犯罪

令和2年中の刑法犯の認知件数は8,560件、検挙件数3,591件で、前年に比べると、認知件数1,762件(17.1%)、検挙件数238件(6.2%)がそれぞれ減少しました。

認知件数を罪種別にみると、窃盗犯が6,106件で最も多く全体の71.3%を占め、以下、粗暴犯432件(構成比5.0%)、知能犯421件(同4.9%)、風俗犯64件(同0.7%)、凶悪犯44件(同0.5%)、その他の刑法犯1,493件(同17.4%)となっています。

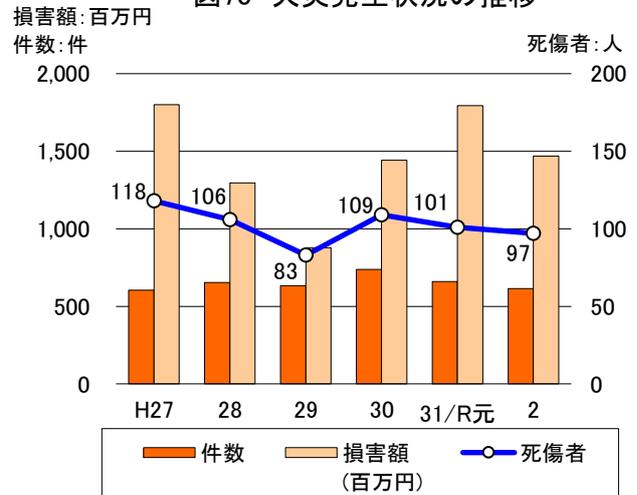
## 火災

令和2年に発生した火災は615件、死傷者は97人で、前年に比べると、火災45件(6.8%)、死傷者4人(4.0%)がそれぞれ減少しました。

また、損害額は14億6,775万円で3億2,531万円(18.1%)の減少となりました。

出火件数を火災種別でみると、建物288件(構成比46.8%)、車両64件(同10.4%)、林野21件(同3.4%)、船舶2件(同0.3%)、その他240件(同39.0%)となっています。

図70 火災発生状況の推移



資料 県防災対策部消防・保安課